

令和5年度 授業改善実践研究校報告書 安西中学校

～ ICT機器を活用して、多面的・多角的に考えを深め、広げる道徳の授業づくり ～

1 学校の課題

昨年度の学校評価(7月)において、設問「地域や社会をよくするために、何をすればよいか考えることができる」に対して「よくなる」と答えた生徒は49.1%と半数を切っており、地域や社会との距離があり、自分自身のこととして捉えられていない。設問「考えを深めたり、広げたりすることができる」に対して「よくなる」と答えた生徒は55.6%であり、小グループや学級内での意見交流は行っているが、十分な成果を上げておらず、交流の方法も含めて改善が求められる。設問「自分にはよいところがあると思う」に対して「とても思う」と答えた生徒は44.3%であり、自己肯定感が低い。また、全国学力・学習状況調査の結果は全国・市平均を下回っており、引き続き、学力の向上に向けて取り組む必要がある。

2 研究主題

ICT機器を活用して、多面的・多角的に考えを深め、広げる道徳の授業づくり

3 取組内容

地域や社会の一員として、地域・社会に貢献し、自分の生き方を考え実践できるよう、多様な価値観の存在を前提に、他者と対話し協働しながら、物事を多面的・多角的に考えることができる道徳科の授業を実践するため、以下の取組を行った。

- (1) 自分事として考えるための工夫
地域や社会で起きている問題を、生徒の身近な問題として捉えさせ、自分事として問題意識をもって考えることができるよう、以下のような工夫を行った。
 - ① 事前アンケート
事前にアンケートを実施し周りが自分と同じ意見ばかりではなく、様々な意見を持っていることを知った。どのような理由なのかを知りたいという思いから自分との類似点や相違点を見つけることにつながる。
- (2) 多面的・多角的に考えるための工夫
 - ① 他者との意見の交流
タブレットに考えや感想を記入後、グループごとに「広場」にて意見交流を行った。
- (3) タブレットの活用
 - ① Classroomの活用
GoogleのClassroomを活用し、事前にPDFにした本文を生徒に送り、その場で開いて本文を教員が音読した。また、導入時にアンケートを実施しその場で集計することで、瞬時に人数分布が分かり、だれが何を選んでいたかが分かるようにした。
 - ② ミライシードの活用
アムーブノートで自分の考えを入力したものを「広場」に送り、他者の考えを各自が閲覧できるようにした。
- (4) 配慮を必要とする生徒への支援
 - ① デジタル教科書(場面絵などの活用)
 - ② 発問を書いた短冊の活用(色分けをする)
 - ③ 生徒の発言を端的にまとめて板書する工夫

4 検証結果

成果指標のデータ等

以下 3 点の評価指標についての変化は以下のとおりである。

学校評価 生徒アンケート結果（「とてもできた」の数値）

評価指標	R3. 12月	R4. 12月	R5. 12月
① 考えをまとめたり他人の意見を聞いたりすることで自分の考えを深めたり広げたりすることができた。	61.8%	68.9%	67.9%

学校評価 生徒アンケート結果（「とてもできた」の数値）

評価指標	R3. 12月	R4. 12月	R5. 12月
② 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができた。	60.8%	68.9%	67.9%

学校評価 教員アンケート結果（肯定的評価の数値）

評価指標	R3. 12月	R4. 12月	R5. 12月
③ 道徳の授業で生徒の考えを深め、広げる場を設定することができた。	83.3%	85.0%	81.3%

5 研究成果

※成果・課題等

(1) 成果

- ・ 教員が ICT を活用した道徳の授業づくりを目指して取り組んだ結果、生徒は、ミライシードを活用し、他者の多様な考えに触れ、自分とは異なる考えや価値観があることを知ることができた。また、役割演技を行ったり、他者の演技を観察したりすることで、今まで気づかなかった視点の発見につながるなど、多面的・多角的に考えさせることにつながった。

(2) 課題

- ・ ICT を活用して、写真や動画を見せ、関心・意欲をもたせることにつなげたり、タブレットを活用して、賛成・反対の立場を支持する人数の分布など学級全体の状況を瞬時に把握したりすることは可能となったが、タブレットを使用する際は個人での作業になりやすく、グループ活動をどのように設定していくかについては課題が残る。タブレットの使用が目的ではないので、1時間の授業の中で、タブレットを活用するところと、対面でのコミュニケーションを大事にするところを明確にして授業づくりを行っていく必要がある。
- ・ 生徒がこれまで以上に多様な考えや意見に触れ、多面的・多角的に考え、新たな視点に気づき、自分の考えを深め、広げることができる道徳の授業づくりを目指し、より効果的な ICT の活用方法や、充実した人間関係づくりについて研究を推進していきたい。